

肥満であるほうが死亡率が低いという
肥満パラドックス (obesity paradox) は存在しない

2型糖尿病の患者の体重と死亡率の関係は未だ明らかにはなっておらず、太り過ぎや肥満の人のほうが、標準体重の人よりも死亡率が低いという報告（肥満パラドックス； obesity paradox）もある。そこで、本研究では糖尿病の診断時に心臓血管病やがんのない看護師 8,970 人と保健従事者 2,457 人を対象に、肥満度指数（BMI）と死亡率の関係について検討した。

その結果、平均 15.8 年の追跡期間中、3083 人が死亡した。肥満度指数（BMI）と死亡率は J 字型関連性がみられ、肥満度指数（BMI）が 18.5-22.4、22.5-24.9、25.0 - 27.4、27.5-29.9、30.0-34.9、35 以上の場合^(註)、それぞれ死亡率は 1.29、1.00、1.12、1.09、1.24、1.33 となった。非喫煙者では、線形の関連性を示したが（各 BMI カテゴリー別危険率はそれぞれ 1.12、1.00、1.16、1.21、1.36、1.56）、喫煙経験者では非線形の関連性を示した（各 BMI カテゴリー別危険率はそれぞれ 1.32、1.00、1.09、1.04、1.14、1.21）。糖尿病診断時の年齢が 65 歳未満では明らかな線形関連性がみられたが、65 歳以上では線形関連性はみられなかった。

したがって、全被験者と喫煙経験者において、肥満度指数（BMI）と死亡率には J 字型関連性がみられ、非喫煙者では線形関連性がみられた。糖尿病診断時に肥満である患者のほうが標準体重の患者よりも死亡率が低いという肥満パラドックス obesity paradox は認められなかった。

出典：New England Journal of Medicine. 2014; 370: 233-244

(註)：BMI は 20-24 が標準値とされている